

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671200263		
法人名	医療法人 青鳳会		
事業所名	グループホームみま石井		
所在地	徳島県名西郡石井町浦庄字上浦524-9		
自己評価作成日	令和3年1月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和3年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざしたグループホーム作りを実現するために、町役場分館の運営協力委員としてイベントや認知症介護についての啓発活動に参画し、利用者が地域社会と自然に交流できるよう取り組んでいます。一人ひとりが、たとえ身体機能が低下しても、たとえ認知症が進行しても、それぞれの持てる力を発揮して社会生活を継続できるよう家族や地域住民、他職種と連携して支援しています。今年度は新型コロナウイルスにおける感染予防策として、地域イベントの中止や行楽にも出かけにくい状況となってしまいましたが、庭での日光浴、周辺の散歩や密を避けてのドライブをしたり、屋内でのレクや行事を増やして、楽しみ事を減らさない努力をしています。また、ホームでの看取りについては、状態に応じて、本人や家族の意向をその都度確認しながら、指針に基づいた体制を整えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣に商業施設や学校、駅などがある、国道沿いに位置している。地域密着型サービスの意義をふまえた、3つの事業所理念を掲げ、利用者が家庭的な雰囲気の中で、安心して過ごすことができるよう、職員一丸となって支援に取り組んでいる。地域との連携を大切に捉え、事業所として自治会に加入し、季節の行事やイベントに積極的に参加している。運営推進会議にも、老人会の代表者や民生委員など、地域からの出席を多く得つつ、活発に情報交換を行っている。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、電話連絡や書面による会議の開催など、地域との関係性の継続に向けて工夫している。協力医療機関とは、日ごろの利用者の体調管理や介護計画に対する意見の反映、家族等の希望に応じた看取り支援における連携・協力など、密接な連携体制を整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の家であり、地域社会の一員として暮らすための基本理念、職員心得を職員が作り、毎朝提唱することで意識付けができています。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。理念を玄関の入口に掲示するなどして、利用者や家族、職員等への周知を図っている。新規職員についても、研修の際に理念を伝え、実践につなげるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が地域の協力委員としてイベント等に参画し、職員や利用者が地域と一体となって活動している。今年は行事等が中止になったが、散歩中の声かけや挨拶など交流は継続している。	事業所では、地域の自治会に加入し、行事やイベントに参加したり、近隣中学校で認知症サポーター養成講座を実施したりして、積極的に地域と交流している。感染症(コロナ等)の流行下においては、散歩の際に地域住民と挨拶を交わすなど、関係性の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と共に地域活動をしてきたことで、認知症に対する理解は広まっている。職員の言葉かけや接し方を見て役立ててくれたり、認知症ケアについての相談などが寄せられる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況や活動の報告と評価、様々な事例についてはたくさんの意見やアドバイスを頂くので、サービス向上に活かしている。今年は開催できていないが、利用者状況や生活の様子を書面でメンバーに報告している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族等、町担当職員、社会福祉協議会、地域包括支援センター職員、老人会代表、民生委員など、多くの出席を得ている。事業所の状況を報告し、意見をj得るなど、双方向的な会議となっている。今年度は、書面により、各委員へ状況報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者はホームの取り組みの姿勢を理解してくれており、また、町の取り組みについても情報交換し、相互協力の関係を築いている。今年は特に新型コロナ関連での相談や情報共有に努めている。	管理者は、定期的に、町の担当者に対して、事業所の状況報告や困難事例の相談などを行い、助言を得ている。また、町が主催するイベントや会議などに参加し、福祉的なアドバイスをを行うなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の指針を作り、研修を行うことで周知徹底している。適正化委員会では日々のケアを検証し、利用者の心身の自由と安全を確保できるよう努めている。	事業所では、年4回、身体拘束に関する委員会を開催し、身体拘束の内容や弊害について、職員間の周知・理解を図っている。日中は、玄関を開放する時間を設けるなど、利用者が拘束感を感じるここのないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期研修だけでなく、日常的に身体拘束を含む虐待防止、不適切ケアを未然に防ぐための話し合いを行っている。言葉かけやちょっとした振る舞いも適切であるか互いに注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用していた方がいた時は、研修に加え身近なこととして知識が得られたが、現在は対象者がおらず、資料にて研修を行う。必要時に適切に活用できるよう家族にも情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間をかけている。専門用語は誰にでもわかりやすい言葉にし、一つ一つの項目に対してその都度理解を確認し、疑問や不安があれば納得頂けるよう丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見、要望を謙虚な気持ちで受け止め、職員間で話し合い改善すべきところは迅速に改善し、前向きに努力している。職員だけでなく、推進会議を利用して意見を頂くこともある。	職員は、日ごろの支援において、利用者との会話などから、要望等の把握に努めている。家族等についても、来所時などに、意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。感染症の流行下においては、電話等で意見を聞き取り、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全員参加の会議の開催が難しいため、管理者が職員の意見や提案をヒアリングし、代表者に直接伝わるよう仲介する役目を担っている。また、法人においては個人評価票で職員意見の聞き取りを行っている。	管理者は、日ごろの支援のなかで、職員から意見や提案等を聞き取っている。年2回、個別の面接やアンケート等も行っている。聞き取った意見等をもとに協議し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課において、職員それぞれを評価し、モチベーションを上げられるよう努力している。4月から準職員を廃し、全員正職員になった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修や勉強会、法人での外部講師を招いての研修会、外部研修への参加を認めている。職員の習熟度に応じて必要な研修が受けられるよう計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設を見学したり、話を聞くことで、自施設と比べ振り返る機会になり、良いところは見習い、悩みや問題は共感して考えるようにしてきた。今年は交流できていないが、適宜情報交換している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談にて本人の話を傾聴し、言葉にならない思いも把握できるよう努めている。入居前の段階で交流し関係を築くことで、本人が安心してホーム生活を始められるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談の段階で家族が困っていることや気持ちを受け止め、不安を和らげるよう努めている。これからいっしょに本人を支えていく信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活習慣や要望を把握し、社会資源を含めた支援の方法を考えるようにしている。まずはホームでの生活に慣れ、地域のかや他部署と連携し、暮らしが充実できるように工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような信頼関係を築ける努力をし、お世話するだけでなく、同じ空間で笑ったり怒ったりしながら助け合って生活できるような関わりを心がけている。激動の時代を生きてきた包容力に励まされることも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の関係性も様々で、それに応じた対応に努めている。面会ができない状況の中でも、密に連絡を取り、利用者の様子を伝えたり、相談をして何らかの関わりを持ってもらうことで連携している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでは親族や知人、地域の方の訪問が多く、また、馴染みの場所に出かけることも多かった。今年リモート面会をし、たまに、車で自宅等に寄り、窓越しではあるが家族と会うこともあった。	事業所では、家族等の協力を得て、利用者の行きつけの美容院へ出かけたり、同窓会に参加したりするなど、馴染みの関係性の継続に向けた支援に取り組んでいる。感染症の流行下においては、個別に馴染みの場所へドライブに行くなど、関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や考え方の傾向を把握して仲介することで、孤立のないよう支援している。会話を楽しめる相手、気遣って助ける相手、それぞれの関係性を大切に見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	受け入れ先には現在の本人の状況だけでなく、入居期間中の関りから知り得た本人の個性や好み、考え方などを詳しく伝えるようにしている。家族とは地域住民として関係性を継続できている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに興味を持ち、人間像や思いを知るために努力している。思いを口にできない方も多く、家族からの情報収集や生活の様子から本人の内面に思いをはせ、話し合っている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者一人ひとりの意向の把握に努めている。利用者のこれまでの生活歴や背景等を知ることが大切に捉え、家族等から情報を得つつ、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にも協力してもらい、利用者個々の生活歴やエピソード情報を収集し、本人の価値観を尊重したケアを心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、職員みんなで書き込んで検討している。心身状態や一日の過ごし方などの現状を、一人の判断でなく多角的に捉えるように努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、目標の達成度や新たな課題などをモニタリングし、本人と家族の意向や評価と合わせて、目標やケアの内容を変更している。状態の変動のある時や終末期には話し合い、介護計画の見直しを行う。	事業所では、利用者や家族等の意向を踏まえた介護計画を作成している。定期的に計画の見直しを行う際には、細かな心身状況の変化にも気を配っている。随時、利用者の現状に即した見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の具体的な記録は、目標の達成度やサービス内容の評価の指標になる。それをもとに月単位の暮らしの日記、モニタリングを個々に作成し、家族や職員で情報を共有してケアに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況は変わるので、その時々に必要なことは何かを判断し、何ができるかを考える。ニーズに応じて必要なことを必要な時に提供できるよう、日課や業務にとらわれない柔軟な対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力委員会、学校、老人会、民生委員や地域包括支援センターと協働し、イベントの開催、子供の育成、地域振興にも持てる力を発揮する努力をしてきた。今年は休止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関だけでなく、これまでのかかりつけ医を受診したり、訪問診療が受けられる。必要な診療科目についても本人、家族の意向にそよう支援している。緊急時の対応や搬送先も確認している。	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門科等を受診する際は、家族等の協力を得るとともに、受診状況の共有化を図っている。協力医療機関とも連携し、利用者が適切に医療を受けることができるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約し、馴染みの看護師と相談しながら健康管理をしている。24時間体制でいつでも必要な指示を仰ぐことができ、医療連携のサポート、必要な検査や処置、医療職ならではの関係を築いてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については病院との情報交換、相談に努めている。環境の変化に伴う認知症の進行を考え、また、機能低下や廃用が進まないよう、早期退院に向けての方向性を関係者と話し合い、調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、看取りについての指針を整理し、契約時及び定期的に意向確認を文書で行う。事業所でできること、できないことを見極め、説明し、できる限り本人や家族の意向にそった対応ができるよう、医療職と協力して支援している。	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期の指針について、利用者や家族等に説明している。利用者の心身状況に応じて、家族等の意向も踏まえつつ、関係機関と連携し、チームで支援に取り組んでいる。昨年度には、家族等の要望を受けて、看取り支援も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作り、医療職と連携して定期的に研修を行っている。急変が予測される時や発生事例があった時は速やかに勉強会や訓練を行い、実践力を身に付けるよう教育、指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、同時に地震、水害時の研修、避難所までの経路確認、移動訓練も行う。今年は住民参加は中止した。水や食料の備蓄に加えておむつや生活用品の備えもしている。	事業所では、年2回、消防署や地域の協力を得て、避難訓練を実施している。火災や水害等を想定し、実際に利用者と一緒に二階へ避難するなど、実践的な訓練を行っている。備蓄品も整備し、期限にあわせて炊き出し訓練を行うなどして、災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや声のトーンに注意して、尊厳を損ねない配慮をしている。プライバシーの確保について全職員で話し合い、個人の領域に関する気遣いや恥ずかしい思いをさせないよう取り組んでいる。	事業所では、毎月、安全委員会を開催し、ヒヤリハット等について、職員間での共有化を図っている。職員は、声のかけ方や言葉使いなど、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちを職員本意で解釈せず、自己決定の表示ができるような雰囲気作りをし、職員は待つことができるように互いに呼びかけている。言葉だけでなく、表情や仕草からも読み取れるよう気を配っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や基本的な業務の流れはあるが、利用者の生活習慣やペースに合わせて柔軟に対応し、希望にそって、優先すべきことは何かを考えて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の習慣や希望にそって支援を心がけている。知り合いの美容師が訪問してくれる利用者もいる。女性の方は特に頭髪の乱れないよう注意して整えている。マニキュアなどのちょっとしたおしゃれは喜ばれる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年6月より食事を外部委託することになり、朝食のみホームで作って提供している。調理には携わってもらっていないが、片付けを手伝ってもらっている。手作りおやつをいっしょに作ることもある。	食事は、感染症の流行にともない、昼食・夕食は外部委託し、朝食を事業所で作っている。行事や誕生日等の際には、おやつやケーキを作るなど、食事が楽しみなものとなるよう取り組んでいる。季節にあわせて、庭で育てた野菜をメニューに加えることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、脱水や低栄養に注意して健康管理している。給食になったため栄養価の管理がしやすくなった。嚥下や咀嚼の状態に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは一人ずつ洗面台で口腔チェックを行いながら、本人の能力に合わせて介助している。一日の終わりには義歯洗浄剤を使用している。		



自己	外部	項目	1階		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で個々の排泄パターンを把握し、声かけ誘導して失禁を未然に防げるよう心がけている。安易にオムツにせず、パッド類も排泄に応じた適切な物を選び、軽快に心地よく生活できるよう支援している。	事業所では、利用者一人ひとりの心身状況にあわせた排泄支援に取り組んでいる。日中・夜間ともに、できる限りトイレで排泄することができるよう、車椅子などを活用し、誘導支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢であり運動量も少なく、軟便剤を服用する人もいるが、おやつや飲み物を工夫したり、運動やマッサージなどで便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や習慣にできるだけそった入浴をしてもらっている。拒否される方には、その理由を考えたり羞恥心や気持ちに配慮して対応することで、納得して気持ちよく入浴してもらうようにしている。	事業所では、利用者の希望にあわせた時間帯に入浴することができるよう支援している。入浴拒否がある場合には、家族等の情報・協力を得つつ、安心感を持って入浴できるよう、言葉かけなどに配慮している。入浴剤や季節湯を行うなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のパターンは一人ひとり違うので、習慣を継続できるよう心がけている。眠れないことのある人にはその原因を考えたり、重要な原因がなく支障がなければ眠ることに執着しないことも大切と考える。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬管理表により、誤薬や飲み忘れのないよう管理している。利用者が何の病気でもんな薬を飲んでいるか、その効能と副作用まで理解し、医師と相談して調整している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今年はコロナ対応で行事や外出などの楽しみが激減しているが、散歩をしたり屋内での楽しみごとを考え、毎日のレクメニューを充実させた。嗜好品や差し入れ等も周りに配慮しながら楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出しており、たとえ重度になっても散歩や行楽には積極的に出かけてきた。家族や地域の協力もあり、花見などには全員で出かけられるよう最大限の努力で実現してきた。今年は少人数での散歩や密を避けての外出にとどまった。	事業所では、気候のよい日には散歩に出かけたり、花見等の季節行事にあわせて出かけたりのなど、日常的に外出支援を行っている。感染症の流行にともない、敷地内を散歩するなどして、外気を感じることができるよう工夫している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1階 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金を出納管理し、家族に確認してもらっている。お金を自分で持つことで安心する場合もあり、少額の現金を財布に入れて持つ方もいる。買い物の際はできるだけ自分で支払ってもらえるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持つ利用者もいるが、希望に応じて職員が電話の取次ぎをすることが多い。携帯の使用については間違いやトラブルのないよう気をつけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な生活感がある雰囲気作りをしている。また、季節感が出るよう、小物のレイアウトを工夫している。中庭で犬を飼っており、退屈しのぎに遊んだり、愛らしい仕草に顔をほころばせている。今年は特に換気に重点を置いている。	共用空間は、利用者が居心地よく過ごすことができるよう、机の配置など、安全面に配慮している。壁面には、季節の花や作品を飾るなど、季節感を感じることができるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の和室があり、一人でくつろぐことも気の合う利用者とお喋りして過ごすこともできる。ウッドデッキで犬と触れ合うこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、居室には本人の望む物を置いたり、愛用品を持ち込んでそれぞれに居心地と使い勝手のよい部屋作りに努めている。アルバムや観葉植物、中には総理大臣の表彰状の額縁を飾る人もいる。	居室には、利用者の使い慣れた机や椅子などの家具を持ち込んでもらっている。写真や観葉植物、手芸品などを飾ることで、利用者一人ひとりが、居心地よく過ごすことができる環境づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力に合わせて家具やベッドの配置や向きを変える。家具に手をつき支えにすることもあり、寄りかかると危険な脆弱な物は置かないようにしている。表示はわかり易く、間違いを招かない工夫をしている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で毎朝提唱することで意識付けをしている。理念や心得を作った経緯や背景、意味をよく理解し役立てよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が地域の協力委員としてイベント等に参画し、職員や利用者が地域と一体となって活動している。今年は行事等が中止になったが、散歩中の声かけや挨拶など交流は継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と共に地域活動をしてきたことで、認知症に対する理解は広まっている。職員の言葉かけや接し方を見て役立ててくれたり、認知症ケアについての相談などが寄せられる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近況や活動の報告と評価、様々な事例についてはたくさんの意見やアドバイスを頂くので、サービス向上に活かしている。今年は開催できていないが、利用者状況や生活の様子を書面でメンバーに報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者はホームの取り組みの姿勢を理解してくれており、また、町の取り組みについても情報交換し、相互協力の関係を築いている。今年は特に新型コロナ関連での相談や情報共有に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の指針を作り、研修を行うことで周知徹底している。適正化委員会では日々のケアを検証し、利用者の心身の自由と安全を確保できるよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期研修だけでなく、日常的に身体拘束を含む虐待防止、不適切ケアを未然に防ぐための話し合いを行っている。言葉かけやちょっとした振る舞いも適切であるか互いに注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している方はいないが、資料で研修したり、職員同士で教え合っている。制度利用の方の入居や入居中の方に必要性が出てきた時に正しい知識をもって支援したい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間をかけている。専門用語は誰にでもわかりやすい言葉にし、一つ一つの項目に対してその都度理解を確認し、疑問や不安があれば納得頂けるよう丁寧に説明している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見、要望を記録し、職員間で話し合って対応している。要望や意見を出しやすいよう、会話を大切にしている。推進会議も活用して広く意見を頂いている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全員参加の会議の開催が難しいため、管理者が職員の意見や提案をヒアリングし、代表者に直接伝わるよう仲介する役目を担っている。また、法人においては個人評価票で職員意見の聞き取りを行っている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課において、職員それぞれを評価し、モチベーションを上げられるよう努力している。4月から準職員を廃し、全員正職員になった。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内の研修や勉強会、法人での外部講師を招いての研修会、外部研修への参加を認めている。職員の習熟度に応じて必要な研修が受けられるよう計画している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設を見学したり、話を聞くことで、自施設と比べ振り返る機会になり、良いところは見習い、悩みや問題は共感して考えるようにしてきた。今年は交流できていないが、適宜情報交換している。			



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2階 実践状況	実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談にて本人の話を傾聴し、言葉にならない思いも把握できるよう努めている。入居前の段階で交流し関係を築くことで、本人が安心してホーム生活を始められるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は帰宅願望を心配している家族が多く、不安な思いを受けとめ、早く安心してもらえるよう努めている。家族とよく話をする事で信頼関係を築き、早い段階で以前からの知り合いのような関係になれることも多い。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活習慣や要望を把握し、社会資源を含めた支援の方法を考えるようにしている。地域の力や他部署と連携し、必要なサービスが提供できるよう工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いちばん身近にいるという関係性の中で、職員はお世話をするだけでなく、利用者の言葉に慰められたり癒されることも多い。それを理解した上で、日々の暮らしの中でできごとを共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の関係性も様々で、それに応じた対応に努めている。面会ができない状況の中でも、密に連絡を取り、利用者の様子を伝えたり、相談をして何らかの関わりを持ってもらうことで連携している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年は外部との交流は控えており、馴染みの人の訪問も、こちらから出かけることもなかった。忘れてしまわないよう、知人や馴染みの場所、地域のことを話題にして回想してもらっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで過ごす時間が多く、認知症が進行しても、トラブルが多くなっても、みんなで怒ったり笑ったりしながらいつも一緒にいる。助けたり助けられたり、自分たちで上手く関係性を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	受け入れ先には現在の本人の状況だけでなく、入居期間中の関りから知り得た本人の個性や好み、考え方などを詳しく伝えるようにしている。家族とは地域住民として関係性を継続できている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いをそのまま口にできない人も多いが、生活を共にする人として一人ひとりに興味を持ち、人間像や思いを知るために努力している。安心して暮らしていけるよう職員の意見を出し合い、支援している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は利用者を共に暮らす人として、家族や関係者からの話を聞き、個々の生活歴やエピソードを知る努力をしている。また、本人の話の中から他者の知らない内面を見つけ出すようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを活用し、職員みんなで書き込んで検討している。一人の判断でなく、多角的に捉えることができる。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、目標の達成度や現状をモニタリングし、家族の評価や意向と合わせて目標やサービス内容について話し合っている。本人の心身の状態や思いの変化に応じて介護計画も変更している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録に加えて月単位の生活記録を一日一行日記にし、家族に報告している。担当者だけでなく職員全員の記録が反映され、細かな気づきが共有される。計画の見直しにも役立つ。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況は変わるので、その時々に必要なことは何かを判断し、できるかぎりの手を尽くしている。画一的な支援でなく、一人のために考え、行動するよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力委員会、学校、老人会、民生委員や地域包括支援センターと協働し、イベントの開催、子供の育成、地域振興にも持てる力を発揮する努力をしてきた。今年は休止している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関だけでなく、これまでのかかりつけ医を受診したり、訪問診療が受けられる。必要な診療科目についても本人、家族の意向にそよう支援している。緊急時の対応や搬送先も確認している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約し、馴染みの看護師と相談しながら健康管理をしている。24時間体制でいつでも必要な指示を仰ぐことができ、医療連携のサポート、必要な検査や処置、医療職ならではの関係を築いてくれる。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院については病院との情報交換、相談に努めている。環境の変化に伴う認知症の進行を考え、また、機能低下や廃用が進まないよう、早期退院に向けての方向性を関係者と話し合い、調整している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期、看取りについての指針を整理し、契約時及び定期的に意向確認を文書にて行う。事業所のできることを、できないことを見極め、説明し、できる限り本人や家族の意向にそった対応ができるよう、医療職と協力して支援している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作り、医療職と連携して定期的に研修を行っている。急変が予測される時や発生事例があった時は速やかに勉強会や訓練を行い、実践力を身に付けるよう教育、指導している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行い、同時に地震、水害時の研修、避難所までの経路確認、移動訓練も行う。今年は住民参加は中止した。水や食料の備蓄に加えておむつや生活用品の備えもしている。			



自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉やトーンに気をつけ、利用者の尊厳を損ねないような声かけに配慮している。全職員でプライバシーの確保について話し合い、恥ずかしい思いをさせたり不適切ケアのないよう取り組んでいる。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の気持ちを職員主導で解釈して行なうのではなく、自己決定を待つことができるよう心がけている。利用者の言葉だけでなく、表情や仕草からも思いを読み取れるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な業務の流れはあっても、利用者の年齢も高くなっているため、体調や気分、希望にあわせて優先すべきことを考えて組み立てている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で身だしなみを整えたりおしゃれができる人が少なくなり、職員は、頭髪の乱れがなく、いつも清潔感のある装いに配慮している。女性は訪問美容室、男性は地域の理髪店を利用している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が給食形態になり、調理の手伝いの機会はなくなったが、片付けを手伝ってもらっている。朝食は職員が作るため、みそ汁の具などをいっしょに考えている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をチェックし、脱水や低栄養に注意して健康管理している。給食になったため栄養価の管理がしやすくなった。嚥下や咀嚼の状態に合わせた形態で提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけし、口腔ケアの介助をし、一日の終わりには義歯洗浄剤を使用している。おやつ前には全員で嚥下体操を行なっている。必要に応じて訪問歯科治療や歯科検診を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄を表に記録し、排泄パターンを把握するよう努めている。さりげなく声をかけてトイレに誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。簡単にオムツに頼らず、できる限りの自立支援を心掛けている。					
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢であり運動量も少なく、軟便剤を服用する人もいるが、おやつや飲み物を工夫したり、腹部マッサージなどで便秘予防に努めている。家族情報の整腸剤で解決した人もいる。					
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日時の固定はなく、時間をかけてゆっくり入浴してもらっている。拒否の強い方には、タイミングを図り声かけし、無理強いないよう、その方の思考や行動の傾向を読んで策を巡らせている。					
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠のパターンは個人で違うので、その方のリズムを見出し、無理のないように心がけている。日によって就寝時間が違う方もいるので、その時はホールでゆっくり過ごしてもらっている。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬袋に日付と色分けをし、投薬管理表により、誤薬や飲み忘れのないよう管理している。利用者が何の病気でどんな薬を飲んでいるかや副作用を教え合い、観察しながら医師に相談している。					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今年はコロナ対応で行事や外出などの楽しみが激減しているが、散歩をしたり屋内での楽しみごとを考え、毎日のレクメニューを充実させた。嗜好品や差し入れ等も周りに配慮しながら楽しんでもらっている。					
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出しており、たとえ重度になっても散歩や行楽には積極的に出かけてきた。家族や地域の協力もあり、花見などには全員で出かけられるよう最大限の努力で実現してきた。今年は少人数での散歩や密を避けての外出にとどまった。					

自己	外部	項目	自己評価	2階	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金を出納管理し、家族に確認してもらっている。今年はいっしょに買い物に行くことも、馴染みのパン屋さんの訪問販売で自分で購入することもできなかった。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話の取次ぎや、伝達役をする。なかには自分で携帯電話を持つ方もいる。家族様からの手紙はとても喜ばれ、お返事を書くお手伝いもする。コロナ禍でリモート通話が普及した。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁や廊下には作品や行事の写真などを貼ったり、共用トイレや浴室の清潔と防臭、今年はコロナもあり換気を徹底している。2階は日当たりがよく気持ちが良いが、季節によっては日差しが不快にならないよう空間の演出に配慮している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりの良いエレベーター前のフロアで一人で外を見て過ごしたり、少人数でお喋りを楽しんでいる。階下への行き来も自由で、思い思いに過ごされる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の好む物を置いたり、使い慣れた家具を持ち込んだりして自分流に配慮している。ぬいぐるみを枕元に置いてくれたり、仏壇を置いている人もいる。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーではあるが、車椅子や歩行不安定な方にとって危険な物を除去したり、水こぼれなどがないよう常に気を配っている。わかりやすい表示の工夫をし、自立した生活支援を考えている。			